

Economic Indicators

発表日: 2018 年 11 月 19 日(月)

貿易統計(2018 年 10 月)

～下押し要因の剥落により実質輸出は反発したが～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 伊藤 佑隼 (TEL: 03-5221-4524)

		貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量			
		原数値	季調値	輸出金額		前年比	前年比			前年比	前年比			前年比	前年比
				前年比	前年比		アメリカ	EU	アジア		アメリカ	EU	アジア		
17年	3月	6,035	214	11.9	16.0	7.3	1.9	4.2	8.7	4.7	11.8	4.3	7.4		
	4月	4,783	489	7.5	15.2	3.0	1.0	4.4	5.2	5.7	8.2	5.9	7.1		
	5月	▲ 2,044	1,484	14.9	17.8	6.7	8.1	16.4	6.1	6.8	3.2	4.7	10.0		
	6月	4,332	478	9.7	15.7	4.8	4.7	7.8	5.7	5.1	10.8	11.4	4.9		
	7月	4,066	3,232	13.4	16.5	4.0	2.7	2.0	4.4	4.0	2.7	5.3	8.1		
	8月	968	4,323	18.1	15.5	10.9	16.5	5.0	11.1	4.0	1.3	5.9	5.4		
	9月	6,538	3,032	14.1	12.3	4.2	5.6	1.7	8.9	0.3	10.2	4.3	0.1		
	10月	2,786	4,105	14.0	19.0	4.1	▲ 0.5	3.6	8.4	5.5	▲ 0.9	10.8	7.2		
	11月	1,052	3,538	16.2	17.3	5.7	4.9	▲ 1.1	10.0	4.0	6.5	▲ 2.4	9.5		
	12月	3,562	▲ 242	9.4	15.0	4.6	0.8	2.4	5.2	7.0	4.9	3.0	11.0		
18年	1月	▲ 9,483	4,509	12.3	7.8	10.8	4.7	12.6	13.8	3.3	7.2	3.9	1.8		
	2月	▲ 1	▲ 2,749	1.8	16.6	▲ 0.8	6.1	1.5	▲ 5.9	13.8	5.9	1.8	26.9		
	3月	7,933	92	2.1	▲ 0.5	3.6	6.7	▲ 5.8	5.9	▲ 4.2	3.0	4.7	▲ 7.3		
	4月	6,208	4,975	7.8	6.0	7.2	8.1	6.3	3.6	2.1	2.1	▲ 3.5	2.6		
	5月	▲ 5,833	▲ 2,860	8.1	14.1	6.4	9.9	▲ 2.9	6.0	6.6	6.0	0.4	7.0		
	6月	7,184	545	6.7	2.6	3.2	▲ 0.3	1.1	3.6	▲ 4.5	▲ 7.7	▲ 5.7	▲ 1.3		
	7月	▲ 2,350	▲ 557	3.9	14.7	0.9	▲ 4.8	1.1	3.3	4.0	5.6	9.7	2.5		
	8月	▲ 4,488	▲ 2,482	6.6	15.5	1.1	3.3	4.8	0.4	4.5	8.5	1.2	3.4		
	9月	1,313	▲ 1,415	▲ 1.3	7.0	▲ 4.9	▲ 3.0	▲ 4.8	▲ 4.6	▲ 2.8	▲ 7.8	▲ 8.3	▲ 1.8		
	10月	▲ 4,493	▲ 3,027	8.2	19.9	3.8	10.1	6.9	1.3	10.3	19.8	2.4	12.4		

(出所)財務省「貿易統計」

○貿易収支(季節調整値)は4ヶ月連続の赤字

10月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は▲4,493億円の赤字(コンセンサス: ▲688億円、レンジ: ▲4,030～+1,500億円)とコンセンサスを下回った。

輸出金額は、前年比+8.2%(コンセンサス: +9.0%、レンジ: +1.4%～+12.0%)とコンセンサスを下回る結果となったが、輸出価格(前年比+4.3%)、輸出数量(同+3.8%)ともに増加したことで、輸出金額は前年比プラスとなった。一方、輸入金額については同+19.9%(コンセンサス: +14.3%、レンジ: +8.6%～+18.8%)と増加となった。輸入についても、価格(同+8.8%)、数量(+10.3%)ともに高い伸びとなり輸入金額を押し上げた。

季節調整値では、輸出金額(前月比+4.3%)、輸入金額(同+6.6%)ともに前月比プラスとなったが、輸入金額の増加が大きかったことで、貿易収支は▲3,027億円と前月から赤字幅を拡大させている。輸出が停滞気味に推移する一方で、原油や液化天然ガスといった鉱物性燃料の輸入増加が輸入額を押し上げる中で、貿易収支は赤字基調の推移を続けている。

○実質輸出は前月比+5.4%

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比+5.4%（9月：同▲4.4%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）と前月の落ち込みを取り戻す増加となった。もっとも、今月の大幅な増加については、前月分の押し下げ要因となっていた台風21号を始めとした自然災害の悪影響が剥落したことによる反動が出たことが主因とみられる。そのため、今後もこのような大幅な増加が続くことは期待しづらく、世界経済の拡大モメンタムが弱まる中で、輸出の増加基調も緩やかなものにとどまるだろう。

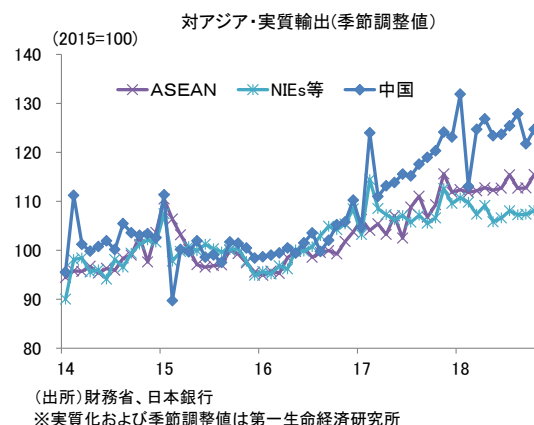
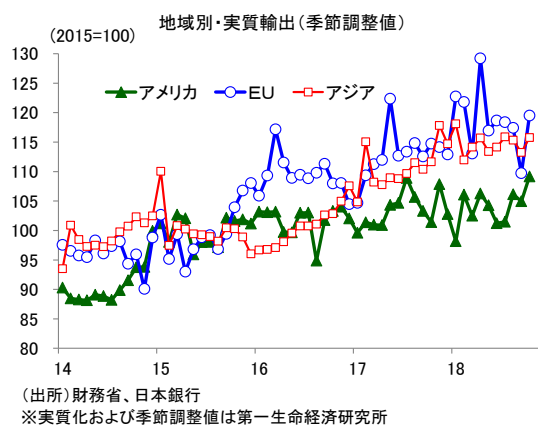
実質輸出を国別にみると、とりわけEUの伸びが目立つ。EUでは輸送用機器（9月：前月比▲22.9%→10月：同+15.8%）やその他の品目（9月：同+1.2%→10月：同+20.4%）が高い伸びとなり、同+8.9%と輸出全体を押し上げた。どの国・地域でも前月プラスとなっているが、品目別に見ると、アジアにおける一般機械（9月：同▲4.1%→10月：同▲0.7%）が不調なのが気がかりだ。年明け以降弱い動きが続いており、中々持ち直す気配が見えない。米中貿易戦争による悪影響が出ている可能性も否めないが、このまま減少基調入りするかどうか慎重に見極めていく必要があるだろう。

○先行きは下振れリスクに要注意

以上のように、10月の輸出は前月からの反動増で前月比高い伸びとなった。

先行きについて海外経済をみると、米国経済は、雇用情勢の改善や賃金が緩やかな上昇傾向で推移することに加え、減税効果により個人消費が堅調さを維持することが見込まれる中で、世界経済の牽引役として引き続き好調に推移するであろう。欧州経済についても、昨年の成長ペースと比べれば見劣りするものの、雇用情勢が改善傾向で推移していることや個人消費など底堅い内需を背景に、堅調に推移するとみられる。ただ、欧州における政治情勢の不安定さが今後の経済成長の足かせとなるリスクには注意が必要だ。中国経済については足元で減速感が見られるが、政府による景気刺激策が維持可能な成長ペースへのソフトランディングを下支えすると見ている。

このように、世界経済が米国を牽引役に緩やかな拡大を続ける中で、輸出についても緩やかながら増加基調を維持するとみている。ただ、米中貿易戦争を始めとした輸出の下振れリスクは高まっている。貿易戦争の激化が米中両国の経済成長率を下押しすることになれば、当然日本の輸出も減少することが予想される。この先、米中貿易戦争による影響が実体経済に色濃く表れる可能性がある中で、輸出の動向は慎重に見ておいた方が良さだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

